聞いてきました まちの声

表紙によせて VOL. 3

八女手すき和紙組合 組合長 松尾 和博 氏

世界無形遺産登録の実現に向けて！

版画家の棟方志功も愛したという八女の手すき和紙。その歴史や組合活動、今後の目標などを松尾和博組合長に伺いました。

後継者の確保が厳しい中、何としても伝統技術を継承していくという強い思いと壮大な夢を語られる前向きな姿が印象的でした。

八女手すき和紙の歴史をお聞かせください。

八女手すき和紙は、九州で最も古く、今から４００年ほど前の文禄４年（１５９５）全国行脚の途中に立ち寄った日蓮宗の僧・日源上人が、越前国（現・福井県）に伝わる紙の技術を伝授したことから始まったようです。

八女産ならではの特徴と適した商品についてお尋ねいたします。

コウゾという木の樹皮繊維が原料ですが、繊維が長いため、引きが良く腰が強く丈夫な和紙に仕上ることが特徴です。

それを生かして、大半は掛け軸の裏紙等の表装紙として利用されています。

組合の設立や活動についてお聞かせください。

当初は２７事業者によって筑後手すき和紙組合という名称で始まり、昭和４７年に福岡県の無形文化財に指定されました。

現在は６軒の会員で活動していますが、名刺、便箋など新商品の開発や海外向けの試作品制作等、新たな挑戦も行っています。

活動の中でご苦労されていることはどのようなことでしょうか。

伝統産業はどの業界も技術を継承することが重要な課題と思います。何といっても、後継者をつくることが一番の悩みの種です。

今後の目標について教えてください。

２０１４年に、石州半紙等３つの手すき和紙が世界無形遺産に登録されました。その後、全国的な手すき和紙の登録に向けた動きがあり、厳しい道のりではありますが、世界無形遺産登録を目標として頑張っていきます。

市議会へのメッセージをお願いします。

市民の代表であることを忘れずに、市民の生活が向上するための行動を期待しています。

議会を傍聴しませんか？

次回定例会

11月30日（月）予定

立花庁舎議場　午前10時から

八女市議会事務局　23-4922

スマートフォンやタブレット端末で
議会中継を見ることができます

http://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/12
インターネットから「八女市議会」を検索
「議会インターネット中継」をクリック！

編集後記

新型コロナと異常気象、これらはどこかで関連していると唱えるのは広井京大教授。▼人間の経済活動の規模が地球の許容度を越えており悲鳴を上げて訴えているというのです。▼これらの問題を克服するためにも、温室効果ガスやプラスチックゴミの削減など環境問題について、ともに考え、ともに行動しましょう。

田中　栄一

発行責任者
議長　角田　恵一

議会だより編集委員会
委員長　高橋　信広
副委員長　大坪　久美子
委員　松崎　辰義
委員　井上　賢治
委員　牛島　孝之
委員　堤　康幸
委員　田中　栄一
委員　川口　堅志
委員　高山　正信

発行／八女市議会　編集／議会だより編集委員会
〒834-8555 福岡県八女市立花町原島95番地1
TEL 0943(23)4922

※この広報紙は竹パルプ10%配合の環境に配慮した紙を使用しています